

暮らし方を

はじめまして、八女に暮らしています

選ぶ Style 1



Life Style
in YAME, FUKUOKA

《問い合わせ窓口》

福岡県八女市役所 地域づくり・文化振興課（定住対策係）

TEL.0943(24)8013 FAX.0943(22)2186

E-mail.teijyutaisaku@city.yame.lg.jp

URL.<http://www.city.yame.fukuoka.jp/teijyu/index.html>



毎日が楽しい時間だと語る梅木さん「2階は、町のお祭りの時には開放しています。八女は、マイペースに生活出来るのが大きな魅力の一つですね」



Style 1

梅木 隆さん

茨城県から移住

「宅老所 はるさん家」

HISTORY

出身地

福岡県田川市

移住元

茨城県

移住年

2013年

職業

宅老所経営

年代

30代

家族構成

本人・妻・長女

新規起業型

初めて八女福島を訪れたときに、「町並みの中で何かできたらいいな」と。カフェの方が人を紹介してくれて、借りるまでに1年ほどかかったんですけど、その間、5回ほど八女にきました。

嫁さんと子どもも連れて来て、「こういうところだよ。どうかな?」って相談して時間を掛けてゆっくりと移住計画を進めました。「イベントもやりたいな」と思って、酒屋のお兄さんに相談すると、なんと酒屋で飲み会を開いてくれて、面白く人間関係が広がつていきました。

子どもと一緒に歩けるこの町並みが、心地よかったです

子どもが生まれて、2歳になってきた頃、茨城にいた時は(福岡の実家)年に一度帰れるかどうかで、親に全然子どもの顔を見せることができなくて、僕と嫁さんの中で、いつか福岡の実家に近いところに引っ越しをしたいという想いが強くありました。僕が田川市出身で嫁さんが飯塚市出身なので、親元から少し離れている八女は最初「どうかな。」と思いましたが、移住する以前の初期の頃にこの町を子供と一緒に歩いていると、道路が歩けるような作りになつていて、それが心地が良かつたんですよね。それで、「凄くいいことだね。」となつたので、家族の反対も無く、すぐ賛成してもらいました。

茨城に居た頃は、子どもが病気をして保育所を休まないといけなくなる度に、僕と嫁さんが仕事を休むことになつて、大変でしたけど、八女に来たら病児保育が2つあって、すぐ預けられるし、値段も安いので、とてもありがたいです。仕事に穴も空けずに済みますし、病児保育が整つているところはすごく助かっています。子育てがし易いですね。

食事も生活も仕事も、毎日が楽しい

八女に来て食生活が格段に良くなりました。ご飯がおいしいです。関東にいたころは食事に対してもストレスがあり、何を食べてもおいしく感じなかつたけれど、こちらに帰つて来た途端、3食おいしいです。どこに行つてもおいしいので、食に対する不満が無くなりました。食材も食べたいなと思ったものが必ずあるので、食生活が楽しいです。そして今、宅老所の仕事をしてるので、毎日外出するんですけど、毎日飽きないです。毎日が楽しい。

八女にはお茶屋さんがいっぱいあつて、6月なると各お店で新茶まつりが開催されます。毎週、お祭りとおもてなしの食事が出ていて、ものすごく楽しいです。それから、星野村まで(八女市)中心部から40分ぐらいで行けます。上陽町には上陽町の、星野村には星野村の風景が変わって、全く違う景色に変わるので、ドライブするだけでも楽しいです。

強引ではない、ウエルカム

はじめ移住するときは、全て自力でやらないといけないという思い込みが強かつたので、まず不動産屋さんに行きました。でも、實際には、市役所の都市計画課に相談することになりました。市役所に相談に行くとは、當時思つていなかつたけれど、「市役所に相談にいきなさい」と、町の人が教えてくれて、それからとんとん拍子に話が進んでいきました。公的機関に相談すると、本当にこつちの立場になつてくれて、相談もしやすいので、移住する時には、まず市役所とかの公的機関に相談に行くつていうのはすごく大切かもしれないですね。

八女はウエルカムだったんですね。でも、かと言つて強引ではないというか、こちらのペースは乱さずに、「是非是非」っていうおもてなしのうがうまいのか、八女ついいなつてすごく思いましたね。



梅木さんご夫妻